

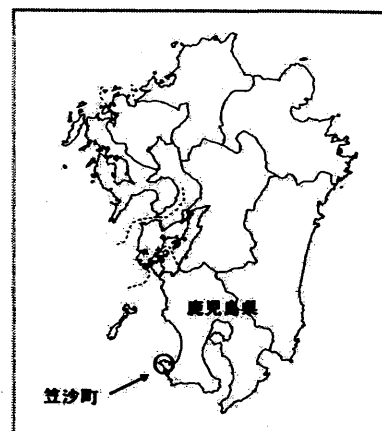
## すんくじらの地で12年 ～サカナとイナカ、イイカナあ～

笠沙町漁業協同組合  
伊東正英

### 1 地域の概要

笠沙町は鹿児島県の薩摩半島西端部にあり、東シナ海に突き出た半島の町で、鹿児島弁で「端っこ」又は「隅っこ」という意味の「すんくじら」にあり、人口は約3,800人、高齢者の比率が高く、過疎化が進んでいる。

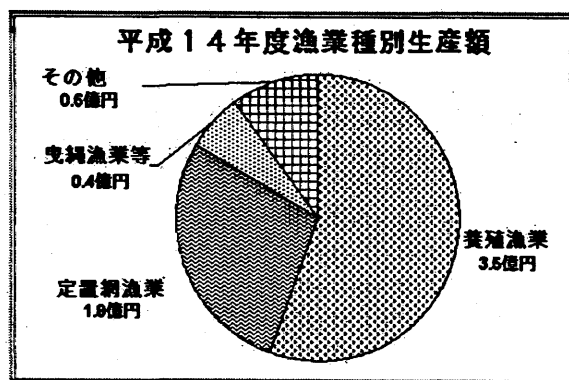
産業は漁業が中心で、観光定置網、ホエールウォッチング、岬巡りクルーズ、遊漁船業など漁業と観光を結びつけた体験型観光の取組が行われている。



### 2 漁業の概要

町内には笠沙町と野間池の二つの漁協があり、私は笠沙町漁協に所属している。組合員数は、正153人、准199人で、正組合のうち、60歳以上の高齢者が75%以上を占め、後継者をいかに確保するかが切実な課題となっている。

主な漁業種類は、魚類養殖、定置網、曳縄で、平成14年度の水揚げは、1,473トン、6億3千万円となっている。

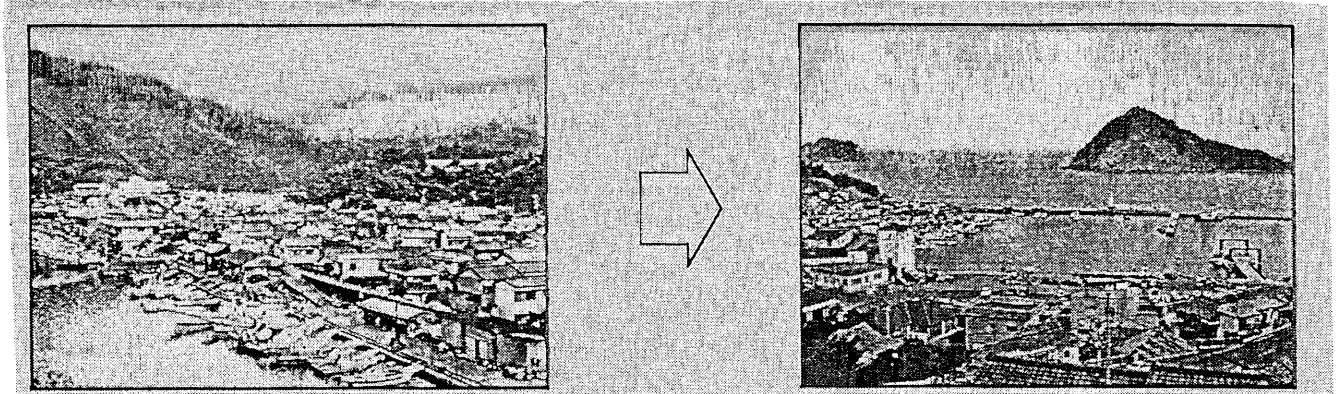


### 3 活動課題選定の動機

私は、長野で生まれ、東京で育った。釣好きが高じて魚に興味を持つようになり、専門学校で海洋生物を学んだ。将来水族館で仕事をしたかったので、葛西水族園でアルバイトを始めた。マグロの飼育に携わったが、そのマグロを収集していたのが笠沙町だった。

学校卒業後は、とにかく魚に関係した仕事がしたくて関東近辺の水試、漁協等で職を探したが願いは叶わなかった。そんな時、水族園の方が高知で漁業を始める事となり、引越しの手伝いに行き、そのまま約2ヶ月間居候した。そこは周りを山で囲まれた小さな港町で、そこで初めて漁師を体験した。漁師さん達は仲間意識が強く、個々に仕事はしているが、一体感があった。時間を気にせず、自然のリズムに従って仕事や生活をし、すれ違う人達がお互いに声を掛け合い、町中が一つの家族のように感じた。その生活が

とても新鮮で魅力を感じ、東京へ帰っても田舎での漁師生活しか考えられなくなってしまった。居候先の先輩に相談し、水族園で関係のあった笠沙町漁協を紹介してもらい、平成3年12月、23歳の時に現職場の丸世大吉漁業生産組合でお世話になることとなった。当時は、1ターンして漁業につく人は珍しく、テレビや雑誌等でいろいろ紹介された。



漁師へ誘った高知の漁村

漁師になった笠沙町

#### 4 実践活動の状況および成果

##### (1) 定置網漁業に就業

私が従事した定置網は、8人持ちの2段箱の小型定置網である。操業は毎朝6時30分からで、3時間程度で水揚げを終え、その後は網のメンテナンスであった。

私は定置網は元より、漁業については、ゼロからの出発で、当初は仕事を覚える事も大変なうえ、予想もしていなかった鹿児島弁にも難儀したが、先輩たちのおもいやりでなんとか乗り切ることが出来た。

最初、仕事は先輩達に教わりながら、ただ言われた通りやるだけだった。沖の仕事はそれぞれ役割分担されており、最初は自分の持ち場の事しか分からなかったが、運良く自分の持ち場が替わったため、一通りの持ち場を経験し、それぞれの仕事を覚えることができた。網仕事は、船頭さんから細かく教えられるとともに、いらぬ網を家に持ち帰り毎晩練習して習得した。

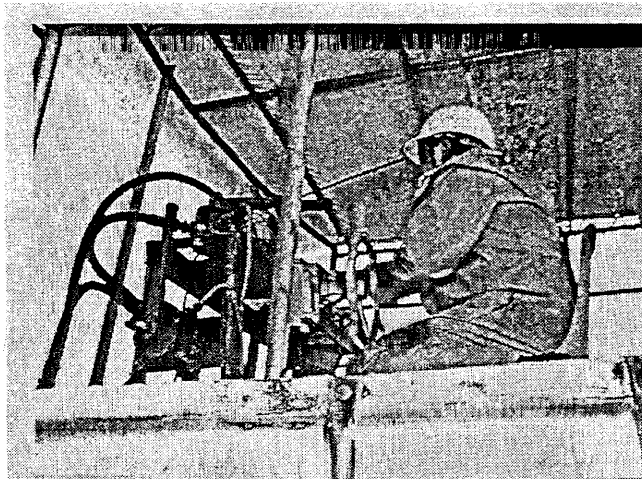
船の免許は専門学校のとて4級をとっており、操業中に船外機の操縦を覚えた。笠沙へきて3年目に1級の免許をとり、4年目には船長を努めることとなった。初めて舵を取った時は、緊張と不安を覚えた。

9年目には船頭を任されることとなり、前の船頭が辞めるまでの約3ヶ月間はその一挙一動を注意深く観察し、頭の中でも何回も網替えを繰り返すイメージトレーニングの日々が続いた。

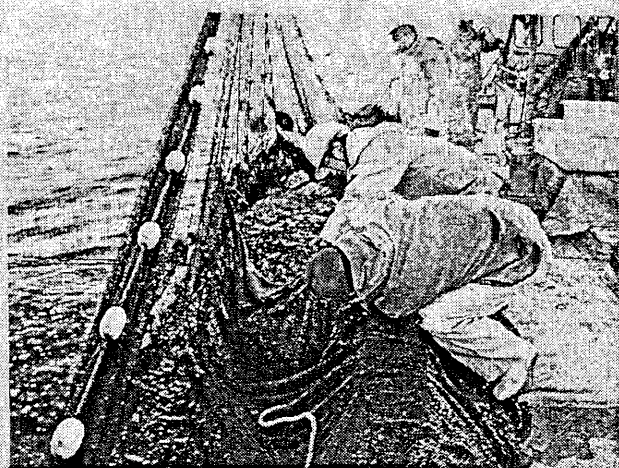
仕事を安全かつスムーズに進めるため船頭は仕事全体を把握し、海況等でいろいろ変化する状況に応じて適切な指示を出さなければならず、船頭になってからは、仕事がいきなり何十倍も増えた気がした。これからも日々勉強し、経験を積んで、誰からも認められる船頭になるよう頑張りたいと考えている。

##### 漁師への道

- ・ 1年目 東京から笠沙町へ (23歳)
- ：
- 言葉の壁を乗り越え  
楽しく修行
- ・ 3年目 船舶操縦士1級取得
- ・ 4年目 船長へ
- ・ 8年目 結婚
- ・ 9年目 船頭へ



もうベテランの域！



乗子への指示も的確に！

## (2) 水族館へ展示魚の出荷

私が笠沙町に来た頃は、マグロ類の種苗を水族館に出荷していたが、しばらくして定置網の魚も出荷するようになり、憧れていた水族館に関係した仕事にまた携わるとは思ってもみなかった。定置網は魚種も豊富なうえ、傷が無く、状態の良い魚を獲ることができることから、展示魚を採捕するには最適の漁法である。

水族館ではペットショップや業者から入手できない魚は、水族館の職員が魚の獲れる漁協に常駐して魚を集めている。笠沙町漁協では、漁協や漁業者が魚の標準和名や獲れる時期等を把握し、その活かし込み技術を習得していることから、水族館から電話で注文を受け、定置網で獲れた魚を生簀に収集して引き渡すことが可能である。この方法では水族館の職員は魚の出荷の時のみ立ち会うだけで、その負担が大幅に軽減されている。

また、注文のない魚でも、水族館の飼育例が無いが、もしくは少ないものなど、珍しい魚や展示価値のある魚が獲れた場合は、独自で確保し、水族館へ売り込んでおり、水族館で働いていた経験がこのようなところで生きていと自負している。

シュモクザメやメジロザメなど活かし込みが難しかった魚の取り扱いも、技術の蓄積で出荷が可能となり、現在は、定置網、曳縄、一本釣等で取れる魚類、貝類、甲殻類など多くの水産動物を、北は北海道、南は沖縄、海外では香港などの水族館に供給し、展示魚の主要な供給基地として全国の水族館関係者から高く評価されていると考えている。

最近では水族館ブームも一段落し、不景気や飼育技術の向上により注文が減ってきているが、水族館へ出荷する魚は、食品としての市場価値がなくても、こちら側の手間が掛かる分、非常に高値で取引される。笠沙町漁協でとれる魚介類は、私が調べたところ300種以上あり、約200種の出荷実績がある。これから

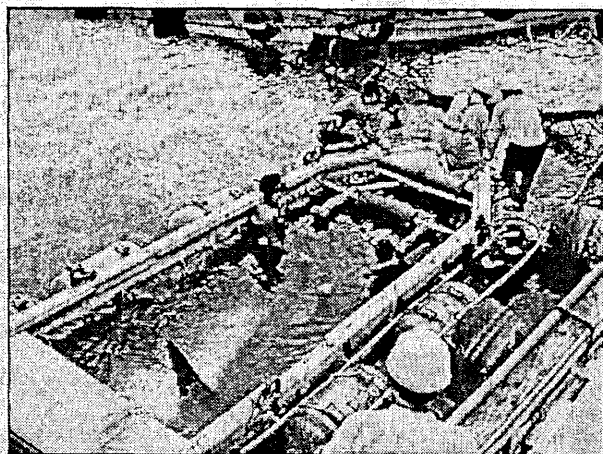
### 出荷する主な水族館

- ・かごしま水族館
- ・葛西臨海水族園（東京都）
- ・名古屋港水族館（愛知県）
- ・マリンワールド海の中道（福岡県）

### 出荷する主な魚と漁業種類

- |     |   |                    |
|-----|---|--------------------|
| 曳縄  | … | マグロ類、カツオ類          |
| 定置網 | … | サメ類、エイ類<br>瀬物類、イカ類 |
| 一本釣 | … | 瀬物類、イカ類            |
| 刺網  | … | エビ類、カニ類            |
| 底曳網 | … | ウニ類、貝類、            |

も漁協と水族館が共に協力して、より多くの魚達を水族館で見てもらえるようにしていきたいと考えている。



シンペイザメの出荷



出荷作業中（酸素パック）

### (3) 地域活動への参加

私は、仕事の他に笠沙では、漁協青壮年部や定置網振興会に所属している。これまでに、藻場造成、マダイ中間育成、花嫁対策としての女性との交流会などの活動をしており、特に交流会は、私自身の花嫁対策として大きな成果をあげた。

また、豊かな海を守るため、近海で行われていた海砂採取の被害状況を調査し、採取反対を訴えた。そして、より多くの人達にこの事実を知らせるために、定置網振興会の青壮年部でホームページを立ち上げた。

ホームページではその他に青壮年部の活動状況や笠沙の自然、漁模様などを掲載した。漁模様は私の担当で、毎週の漁模様を写真で紹介している。



交流会では大きな釣果！

## 5 1ターンによる担い手確保育成

漁業をはじめたいと考える人は沢山いると思われるが、漁業で生計が立てられるのかといった不安とともに、どうしたらなれるのかといった情報が不足している。最近では、全漁連等のホームページでも漁師になるための情報を発信しているが、求人情報はまだまだ少なく、関係機関がもっと情報を収集、発信する必要があると考えている。

漁師になろうとする人には、1ターンの私の経験からやはり定置網を勧める。個人で漁業を始めるには、技術の面、収入の面でかなり難しいと思われる。定置網では仕事は先輩達に教えてもらえ、安定した収入があり、網やロープなどの漁業には欠かせない基礎技術を習得出来るからである。

また、定置網は朝が早い分、仕事が終わるのも一般のサラリーマンと比べると早く、仕事を終えた後の時間を趣味などに使えた。漁業だけの魅力だけでなく、田舎の生活を

楽しむためにも定置網は適している仕事であった。私は潜水を楽しんだり、子供が生まれてからは、毎日子供と外で遊ぶ事ができた。

仕事では、当然のことながら本人の努力、熱意が必要であり、自分から積極的に行動し、自分の仕事は漁業しかないという位の強いやる気を見せれば、受入れる側も、積極的に教えてくれるもので、漁師として認められる一番重要な点でもある。

仕事以外でも、漁協青壮年部などに加入し、漁業種は異なるが同年代の者同士、交流やいろいろな活動を行なう事により、地域の人々と強い信頼関係を築くことが必要である。

## 6 今後の課題

最近では漁獲の減少や魚価の低迷などで、莫大な資金を掛けて漁を始めるには極めて困難な状況にあるが、独立して定置網を行いたいという自分の夢は、これからも持ち続けたい。また、笠沙町の豊かな自然を子供たちに残せるよう環境に常に目を配り、関係者と連携してその保全を図っていきたい。

定置網振興会青年部のホームページ (<http://www3.synapse.ne.jp/seaboy/teich.htm>)

